

「転んで汚しちゃだめよ」

「何言ってるんですか、お母さん。今、泥んこにならなくて、いつなるんですか。君たち、尻もちついてもいいんだぞ」

転びそうになる子どもをお母さんが注意すると、指導にあたっていたNPO法人田んぼ理事長の岩淵先生が、すかさず助け舟を出しました。宮城県南三陸町志津川小森熊田の田植えに、今年は地元の小生十三人が参加しました。みな初めてで、泥に足を取られてうまく歩けません。少しぬるぬるします。一列になり、苗を三十秒間隔の印

認定NPO法人
JKSK理事
大和田順子さん



東北復興日記

44

泥んこで田植え体験

のついたひもの手前に植えていきます。何人かは何度も転んで泥んこになっていました。

田植えに続いて生きもの調査をしました。ヒメアメンボ、ミジンコ、シ

ユレーゲルアオガエル、シマゲンゴロウ、ミスカマキリ、イモリなど。農薬も化学肥料も使わない

田んぼにはさまざま生きものがいて大喜び。「アメンボはどんな匂

いがするかな?」。東北大学の向井先生が子供たちに聞きます。写真。

「じゃがいもみたいな匂い!」と子供たち。自分で捕まえて、じっくり眺めて、触れて、匂いを確かめて。

「ふゆみず田んぼ」としての再生です。昨年田植えから収穫まで一貫して支援してきました。取れたお米は社員が購入しています。今年も田

今回の小学生向けの田植えと生きもの調査は、MS&ADインシユアラース グループ ホール

つて、田んぼの生きものや水鳥たちの力を借りて無農薬、有機栽培をする



催しました。二〇一一年夏から、津波被害を受けたこの約八十軒の水田に社員ボランティアを派遣しています。冬も水を張

続きです。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。